小・中・高等学校における英語到達度指標としての CAN-DO リストに関する研究

和田　憲明

姫路大学教育学部紀要
第11号
平成30年12月31日発行

小・中・高等学校における英語到達度指標としてのCAN-DOリストに関する研究

和田　憲明

要旨

本研究の目的は，英語学習到達度指標としてのCAN-DOリストの元となるヨーロッパにおけるCEFR及びその日本版であるCEFR-Jについて分析するとともに，小・中・高等学校におけるCAN-DOリスト及びそれを活用した実践について考察を加えることによって，新学習指導要領が目指す英語力の育成を踏まえた小・中・高等学校におけるCAN-DOリストの活用のあり方について提言を行うことである。

今回の研究を通して，小・中・高等学校におけるCAN-DOリストの作成及びそれを活用した実践に関して以下の点を確認することができた。

①小・中・高等学校におけるCAN-DO リストの作成において，ヨーロッパにおけるCEFR及び日本のCEFR-Jの影響が強く見られる。その傾向は学習レベル等の形式，記述文の要素及び内容において顕著である。

②小・中・高等学校の現場においては，時間的余裕や生徒間の英語力格差などの問題のため，CAN-DO リストの作成が大きな負担となっている。また，CAN-DO リストの使用目的に対する理解不足からリストの効果的な活用に至っていない学校が多く見られる。

キーワード：CAN-DOリスト，英語到達度指標，CEFR，CEFR-J

１．はじめに

2011年６月，文部科学省は「国際共通語としての英語力向上のための５つの提言と具体的施策」（以下,「５つの提言」）を発表し，英語をはじめとする外国語を，グローバル社会を生きる子どもたちの可能性を広げる重要なツールであるとともに，日本の国際競争力を高めていく上で重要な要素であると規定し，国民の英語力向上を目指すための具体的な提言を提示した。この「５つの提言」は2003年に文部科学省が発表した「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」を受けて行われた英語教育の改善の検証結果を踏まえて策定されたものである。「５つの提言」の内容は以下の通りである。

提言１：生徒に求められる英語力について，その達成状況を把握・検証する。

提言２：生徒にグローバル社会における英語の必要性について理解を促し，英語学習のモチベーション向上を図る。

提言３：ALT，ICT等の効果的な活用を通じて生徒が英語を使う機会を増やす。

提言４：英語教員の英語力・指導力の強化や学校・地域における戦略的な英語教育改善を図る。

提言５：グローバル社会に対応した大学入試となるよう改善を図る。

さらに，提言１の具体的施策として以下の３点を挙げている。

①国や教育委員会，学校は，積極的に英検やGTEC for STUDENTS等の外部検定試験等を活用し，生徒に求められる英語力の達成状況を把握・検証する。

②国は，諸外国の取り組みも参考にしながら，国として学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定することに向けて検討を行う。

③中・高等学校は，学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定・公表するとともに，その達成状況を把握する。国や教育委員会は，各学校が学習到達目標を設定・活用する際に参考となる状況を提供するなど，必要な支援を行う。

文部科学省が生徒の英語力の達成状況を把握する手段として，英検やGTECなどの外部団体の検定試験の活用を提言することは，特筆すべきことであるが，さらに，学習指導要領に基づき達成されるべき英語力を，中学校卒業段階で英検３級程度，高等学校卒業段階で英検準２級～２級程度と規定している。

このように学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定するねらいとしては，学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善とともに，グローバル社会に通用する高度な英語力の習得を挙げている。

「５つの提言」において，各中･高等学校が学習指導要領に基づき，生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定するよう提言がされたことを受けて，各学校において「CAN-DOリスト」の作成とそれに基づいた授業改善の取り組みが行われてきた。文部科学省（2017）によると，平成28年度において「CAN-DOリスト」の形式で学習到達目標を設定している全国の中学校の割合は75.2%，高等学校の割合は88.1%となっている。

２．研究の目的及び方法

本研究の目的は，文部科学省が「５つの提言」において示した学習到達度指標としてCAN-DOリストの元となるヨーロッパにおけるCEFR及びその日本版であるCEFR-Jについて分析するとともに，中学・高等学校におけるCAN-DOリスト及びそれを活用した実践について考察を加えることによって，新学習指導要領が目指すコミュニケーション能力の育成を踏まえた小・中・高等学校におけるCAN-DOリストの活用のあり方について提言を行うことである。

CEFRについては，その作成の理念及び役割を確認するとともに，共通参照レベルの全体尺度及び自己評価尺度の具体的記述を見ることによって，その特徴を分析する。またCEFR-Jについては，CEFRとのレベルの比較や記述文の具体的内容について考察する。

教育現場におけるCAN-DOリストを用いた実践としては，九段中等教育学校の中高一貫CAN-DOリストの実践，神戸市立葺合高等学校の自己表現力やプレゼンテーション能力の育成を目指した独自のCAN-DOリストを用いた実践，及び山形県鶴岡市の「小中高大連携プログラム」による小・中・高等学校における一貫CAN-DOリストの実践を取り上げ，分析を加える。また，小・中・高等学校一貫教育を目指したCAN-DOリスト作成の試みとして樋口ら（2005）及び日本児童英語教育学会･英語授業研究学会合同プロジェクトチームによるCAN-DOリストの分析を行う。

これらのCAN-DOリスト及びそれらを活用した教育実践を分析することによって，CAN-DOリスト作成の利点及び問題点を明らかにするとともに，新学習指導要領によって大きく変わる日本の英語教育におけるCAN-DOリスト活用の意義について考察することは，今後の英語教育の方向性を展望する上で意義があることと考える。

３．研究内容

3.1.1　CEFR の理念及び役割

ヨーロッパ評議会が開発した『外国語の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠 Common European Framework of Reference for Language: Learning, teaching, assessment（以下，CEFR）』は，学習段階ごとの到達基準の設定及び国際的な外国語力の比較が可能な評価のための実用的ツールとして，20年以上に及ぶ研究・協議を経て2001年に公表された。CEFRは，外国語技能の相互認定の拠り所となるものであり，留学や労働市場における人材の流動性を高めることを容易にするものとされ，近年では学校教育におけるカリキュラム改革等によく用いられている（文部科学省, 2013）。

ヨーロッパ評議会がCEFRを開発した背景にあるのは，plurilingualism（複言語主義）やpluriculturism（複文化主義）といった考え方である。異なる言語や文化が共存するヨーロッパにおいて，平和で民主的な社会や共同体を維持していくためには，民主的な市民としてお互いが相手の言語や文化を理解，尊重していく姿勢を持つことが非常に重要となっている。plurilingualismはmultilingualism（多言語主義）と異なる考え方である。multilingualismは複数の言語の知識であったり，特定の社会の中で複数の言語が存在している状態であるのに対して，plurilingualismは，各自が母語以外の言語を異なる別の存在としてとらえるのではなく，母語を含めた多数の言語知識や言語の使用体験が相互に関連し合い，影響を与え，人々に言語や文化に対する柔軟な姿勢が育まれるようになることである（投野, 2013, p. 18）。この複言語主義の考え方に基づき，ヨーロッパ各国の学校で言語教育が展開されている。その到達度指標となっているのがCEFRであり，CEFRに基づく学習者の言語学習と異文化経験を記録するEuropean Language Portfolio（ELP）[1] もヨーロッパの言語教育において重要な役割を果たしている。

CEFRは「共通参照レベル」として，言語能力をBasic User（基礎段階の言語使用者）A 1，A 2 レベル，Independent User（自立した言語使用者）B 1，B 2 レベル，Proficient User（熟達した言語使用者）C 1，C 2 レベルの 6 段階に分類し，「聞くこと」，「読むこと」（以上「理解すること」），「やり取り」，「表現」（以上「話すこと」），「書くこと」の 5 つの領域に分けて到達指標としての言語活動の内容を表示している。表 1 はCEFRの全体尺度を示している。

表 1　共通参照レベル（全体尺度）

C 2	* Can understand with ease virtually everything heard or read. * Can summarize information from different spoken and written sources, reconstructing arguments and accounts in a coherent presentation. * Can express him/herself spontaneously, very fluently and precisely, differentiating finer shades of meaning even in more complex situation.
C 1	* Can understand a wide range of demanding, longer texts, and recognize implicit meaning. * Can express him/herself fluently and spontaneously without much obvious searching for expressions. * Can use language flexibly and effectively for social, academic and professional purposes. * Can produce clear, well-structured, detailed text on complex subjects, showing controlled use of organizational patterns, connectors and cohesive devices.
B 2	* Can understand the main ideas of complex text on both concrete and abstract topics, including technical discussions in his/her field of specialization. * Can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction with native speakers quite possible without strain for either party. * Can produce clear, detailed text on a wider range of subjects and explain a viewpoint on a topical issue giving the advantages and disadvantages of various options.
B 1	* Can understand the main points of clear standard input on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. * Can deal with most situations likely to arise whistle travelling in an area where the language is spoken. * Can produce simple connected text on topics which are familiar or of personal interest. * Can describe experiences and events, dreams, hopes and ambitions and briefly give reasons and explanations for opinions and plans.
A 2	* Can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance (e.g. very basic personal and family information, shopping, local geography, employment). * Can communicate in simple and familiar and routine matters. * Can describe in simple terms aspects of his/her background, immediate environment and matters in areas of immediate need.
A 1	* Can understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases aimed at the satisfaction of needs of a concrete type. * Can introduce him/herself and others and can ask and answer questions about personal details such as where he/she lives, people he/she knows and things he/she has. * Can interact in a simple way provided the other person talks slowly and clearly and is prepared to help.

CEFRの全体尺度のA 1からC 2までの各段階においては，3～4の項目が表記されている。各項目の内容としては，理解に関する項目，表現に関する項目及びインタラクションに関する項目で構成されている。インタラクションに関する項目だけを見ても，「ゆっくりとはっきりと話され，助けがあれば簡単なインタラクションができる（A 1）」段階から「非常に複雑な状況でも細かい意味の違いや区別まで表現できる（C 2）」段階まで幅広い言語力の違いを段階的に記述しているのが特徴である。

CEFRの各段階の指標をさらに5つの領域に分けて詳しく記述したのがCommon Reference Levels: self-assessment grid（共通参照レベル　自己評価尺度）（資料1）である。表2は「やり取り」の共通参照レベルの自己評価尺度である。各レベル2～3の項目から構成されており，項目の内容としては，インタラクション全般に関する程度，言語使用の程度，インタラクションの方略が含まれている。その他の領域においても，「聞くこと」であれば，リスニング力に関する程度及びリソース（テレビ番組，映画など），「読むこと」であれば，リーディング力に関する程度及び対象（手紙，文学，新聞記事等），「話すこと（発表）」であれば，発表に関する英語力の程度，方略及び発表内容，「書くこと」であれば，書く力に関する程度，手段（はがき，レポート，エッセイ等），及び方略という内容が盛り込まれている。

表２ 共通参照レベル（自己評価尺度）Spoken Interaction

C 2	* I can take part effortlessly in any conversation or discussion and have a good familiarity with idiomatic expressions and colloquialism. * I can express myself fluently and convey finer shades of meaning precisely. * If I do have a problem I can backtrack and restructure around the difficulty so smoothly that other people are hardly aware of it.
C 1	* I can express myself fluently and spontaneously without much obvious searching for expressions. * I can use language flexibly and effectively for social and professional purposes. * I can formulate ideas and opinions with precision and relate my contribution skillfully to those of other speakers.
B 2	* I can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction with native speakers quite possible. * I can take an active part in discussion in familiar contexts, accounting for and sustaining my views.
B 1	* I can deal with most situations likely to arise whilst travelling in an area where the language is spoken. * I can enter unprepared into conversation on topics that are familiar, of personal interest or pertinent to everyday life（e.g. family, hobbies, work, travel and current events）.
A 2	* I can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar topics and activities. * I can handle very short social exchanges, even though I can't usually understand enough to keep the conversation going myself.
A 1	* I can interact in a simple way provided the other person is prepared to repeat or rephrase things at a slower rate of speech and help me formulate what I'm trying to say. * I can ask and answer simple questions in areas of immediate need or on very familiar topics.

3. 1. 2　CEFR-Jの分析

CEFR-JはCEFRに基づいて日本人学習者に向けて開発された言語到達度指標である。投野ら（2013）は，関連資料から日本人学習者の英語力を分析し，日本人学習者の約8割がCEFRのAレベル，2割程度がBレベルの英語力を持ち，Cレベルの英語力を保持している学習者はほとんどいないことを明らかにした。この研究結果を受けて開発されたものがCEFR-Jであり，日本人学習者の実態を踏まえて，CEFRをAレベル及びBレベルを細分化し，表3のように5つの領域に渡ってPre-A 1からC 2までの12段階で構成されている。

表３ CEFRとCEFR-Jのレベル比較

CEFR		A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2
CEFR-J	Pre-A 1	A1.1 A1.2 A1.3	A2.1 A2.2	B1.1 B1.2	B2.1 B2.2	C 1	C 2

投野ら（2013）は，さらにCEFR，European Language Portfolio，GTEC for STUDENTS，英検などのCAN-DOリストにおけるディスクリプタ（記述文）を分析し，CEFR-Jのディスクリプタに反映させている。ディスクリプタを見直す観点として挙げられているのは，発表技能（Spoken Interaction, Spoken Production, Writing）用として，① task（performance），② content（condition），③ quality（criteria），受容技能（Listening, Reading）として，① task，② condition，③ textを盛り込むことであった。たとえばSpoken ProductionのB1.1「使える語句や表現を繋いで，自分の経験や夢，希望を順序だて，話しを広げながら，ある程度詳しく語ることができる。」であれば，以下の要素に分類される。

quality（criteria）	content（condition）	task（performance）
順序だて，話しを広げながら，ある程度詳しく	使える語句や表現を繋いで，	自分の経験や夢，希望を語ることができる。

また，ListeningのB2.2「非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても，母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ，映画等）についていくことができる。」であれば，以下のようになる。

text	condition	task
母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ，映画等）	非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても，	会話の流れについていくことができる。

表4はCEFR-Jの発表技能の領域Spoken Productionの12段階の指標を示している。Cレベルを除いて，各レベル2つの指標で構成されている。Pre-A 1の自分の名前や年齢を伝えたり，簡単なShow & Tellを行う段階から，B 2レベルのプレゼンテーションや

ディベート，C レベルの効果的な論理構成を用いて聞き手を理解させる段階まで，幅広い発表の能力が具体的な指標として提示されている。

表 4　CEFR-J（発表）

C 2	*状況にあった文体で，はっきりと流暢に記述・論述ができる。 *効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ，記憶にとどめさせることができる。
C 1	*複雑なトピックを，派生的問題にも立ち入って，詳しく論ずることができ，一定の観点を展開しながら，適切な結論でまとめ上げることができる。
B2.2	*要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら，流暢にプレゼンテーションができ，また，あらかじめ用意されたテキストから自然にはなれて，聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を調整し，そこでもかなり流暢に容易に表現できる。 *ディベートなどで，社会問題や時事問題に関して，補助的観点や関連事例を詳細に加えながら，自分の視点を明確に展開することができ，話を続けることができる。
B2.1	*ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて，事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前で流暢に行うことができ，一連の質問にもある程度流暢に対応ができる。 *ディベートなどで，そのトピックが関心のある分野のものであれば，論拠を並べ自分の主張を明確に述べることができる。
B1.2	*短い読み物か短い新聞記事であれば，ある程度の流暢さをもって，自分の感想や考えを加えながら，あらすじや要点を順序だてて伝えることができる。 *自分の関心事であれば，社会の状況（ただし自分の関心事）について，自分の意見を加えてある程度すらすらと発表し，聴衆から質問がでれば相手に理解できるように答えることができる。
B1.1	*使える語句や表現を繋いで，自分の経験や夢，希望を順序だて，話しを広げながら，ある程度詳しく語ることができる。 *自分の考えを事前に準備して，メモの助けがあれば，聞き手を混乱させないように，馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語ることができる。
A2.2	*写真や絵，地図などの視覚的補助を利用しながら，一連の簡単な語句や文を使って，自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック（自分のこと，学校のこと，地域のことなど）について，短いスピーチをすることができる。 *一連の簡単な語句や文を使って，意見や行動計画を，理由を挙げて短く述べることができる。
A2.1	*一連の簡単な語句や文を使って，自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。 *写真や絵，地図などの視覚的補助を利用しながら，一連の簡単な句や文を使って，身近なトピック（学校や地域など）について短い話をすることができる。
A1.3	*前もって発話することを用意した上で，限られた身近なトピックについて，簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い，複数の文で意見を言うことができる。 *前もって発話することを用意した上で，日常生活に関する簡単な事実を，簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い，複数の文で描写できる。
A1.2	*前もって発話することを用意した上で，限られた身近なトピックについて，簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い，簡単な意見を言うことができる。 *前もって発話することを用意した上で，日常生活の物事を，簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い，簡単に描写することができる。
A1.1	*基礎的な語句，定型表現を用いて，限られた個人情報（家族や趣味など）を伝えることができる。 *基礎的な語句，定型表現を用いて，簡単な情報（時間や日時，場所など）を伝えることができる。
Pre-A 1	*簡単な語や基礎的な句を用いて，自分についてのごく限られた情報（名前，年齢など）を伝えることができる。 *前もって話すことを用意した上で，基礎的な語句，定型表現を用いて，人前で実物などを見せながらその物を説明することができる。

3. 2. 1　中高一貫校におけるCAN-DOリスト

中高一貫教育校においてCAN-DOリストの活用を授業実践に取り入れて行っている先進校として，東京都の千代田区立九段中等教育学校が挙げられる。九段中等教育学校は，東京都立九段高等学校を前身とし，2006年に開校した東京23区で初めての区立の中高一貫教育学校である。能力別教育を特徴としており，英語，数学においては 2 段階の習熟度別授業が行われている。

九段中等教育学校の英語科の教育目標として，以下の 4 項目が挙げられている。

①４技能の力をバランスよく身につけ，英語を使ってさまざまにコミュニケーションをとることができる。

②大学入試でどの生徒も進路実現が可能な学力を身につけている。

③英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。

④興味をもっていることや勉強を深めたい分野について英語を媒介として独学することができる。

多くの生徒が難関大学に合格する学力を身につけているが，英語に関しては，読解や文法事項の学習だけに重点を置くのではなく，４技能全ての能力を平均的に伸長させることを目標としていることが分かる。

九段中等教育学校のCAN-DOリスト（資料２）の特徴は以下の通りである。

①学校の教育目標に合わせて，独自に作成された。

②４技能ごとに各学年（１年～６年）における達成目標を載せている。

③技能ごとに４つの観点を定めている。

④４技能に共通する観点は，「実生活に関わること」と「本校の

行事やKudan Method[2)]に関わること」の2観点である。

⑤「実生活に関わること」の観点においては，英語が使われている国において，本校の指導によってできるようになると思われることを載せている。

⑥各技能の目標として，英検及びGTEC for STUDENTSのスコアが目標として挙げられている。

⑦年度末に目標がどの程度達成できているか調査が実施される。

⑧CAN-DOが達成されるための指導を英語科教員全員で検討し，共通の指導案に基づいて授業を行っている。

⑨学習者の個人差を踏まえ，生徒全体の70％が目標を達成できることを目指している。

表5はKudan CAN-DOリストの各技能における指標づくりの基準となっている項目を示している。特徴③④にあるように，各技能4項目で構成されており，その内2項目が共通している。

表5　九段中等教育学校　CAN-DOリストにおける技能別項目

技能	項目
読むこと	①実生活，②本校の行事やKudan Method，③黙読スピードと概略理解，④音読
聞くこと	①実生活，②本校の行事やKudan Method，③一方的な発話の聞き取り，④会話における聞き取りや技術
話すこと	①実生活，②本校の行事やKudan Method，③準備をして行う発話（発表活動），④即興で行う発話（会話など）
書くこと	①実生活，②本校の行事やKudan Method，③意見，要約，感想などの筆記，④口頭発表するための原稿

表6及び表7は「読むこと」における「黙読スピードと概略理解」，「音読に関すること」の項目の指標を示している。

表6　Kudan　CAN-DOリスト 読むこと（黙読スピードと概略理解）

6学年	*センター入試の第6問レベルの問題を，140wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。
5学年	*センター入試の第6問レベルの問題を，120wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。
4学年	*英検2級レベルの文章を，90wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。
3学年	*都立高校の入試問題（600語程度）を，80wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。
2学年	*英検3級レベルの文章を，70wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。
1学年	*英検4級レベルの文章を，60wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。

表7　Kudan　CAN-DOリスト 読むこと（音読）

6学年	*本校で使用する高校の教科書レベルの文章であれば，初見であっても相手に意味が伝わるように音読できる。
5学年	*英語Ⅱの既習の教科書本文を，意味のまとまりに注意し，ナレーターを演じるように音読できる。
4学年	*英語Ⅰの既習の教科書本文を，意味のまとまりに注意し，相手が理解しやすいように音読できる。
3学年	*中学3年生の既習の教科書本文を，その内容に合わせて感情を込めて音読できる。
2学年	*中学2年生の既習の教科書本文を，英語特有の音を正しく発音しながら音読できる。
1学年	*中学1年生の既習の教科書本文を，正しく発音で滑らかに音読できる。

Kudan CAN-DOリストの特徴として挙げられることは，自律した学習者の育成を視野に入れて，リストに「実生活に関わること」の項目を設定していること，またCEFRやCEFR-Jに比べてディスクリプタの表現が短くシンプルで学習者に理解されやすいものとなっていることである。

3.2.2　高校におけるCAN-DOリスト

神戸市立葺合高等学校は，国際学科を中心とするその高い生徒の英語力の育成を通して，長年神戸市の英語教育の発展に貢献してきた高等学校である。平成17年度から平成19年度の3年間，文部科学省よりSELHi（Super English Language High School）の研究指定を受け，普通科生徒が自己表現やプレゼンテーションを通して実践的コミュニケーション能力を身に付ける指導法に関する実践研究に取り組んだ。その中で，葺合高等学校独自の評価指標CFF（Common Fukiai Framework）を開発し，実践における検証を通して評価法の研究に取り組んだ。

CFFはレベルAからレベルFまでの6段階で構成されており，レベルA，Bは主に普通科の生徒に，レベルCは普通科（特に英語系）と国際科1，2年生に，レベルD，Eは国際科の生徒を対象とした内容となっている。また全体的特徴以外の領域として，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」「やり取りすること（話すこと）」「やり取りすること（書くこと）」「プレゼンテーション」の7つの領域を設定している。表8はCFFの全体的特徴を，表9はプレゼンテーションに関する記述文を示している。

表8　葺合高校 Common Fukiai Framework（全体的特徴）

F	*細かい意味のニュアンスを性格に伝えることができる段階である。慣用的な表現も使いこなせることができる。
E	*言語を効果的に操作できる段階である。ほとんど苦労しないで流暢に自然に自分を表現することができる。また，言い換えによって欠けたところを十分に補えるだけの豊富な語彙がある。自分の意見を言う前に，豊富な語句の中から適切なものを選択して表現でき，メリハリのある話ができる。また，コミュニケーション方略を駆使し，発言権を相手に渡さない能力を持っている。

D	＊やり取り能力がかなり進んだ段階である。語彙数には限界があるが，発言内容に矛盾点がなく一貫性があり，結論とその根拠が明確である。また，情報収集力に優れ，外国人に質問したり，メディアから情報を集めたものを簡潔にまとめて発表できる。やり取りにおいてquick responseが比較的可能で，相手の意見と自分の意見を比較・対照しながら表現することができる。
C	＊情報の概要を捉えることに優れている段階である。話し言葉，書き言葉の両方において理解力に優れ簡潔にまとめることができる。日常的な話題についてかなり自然とコミュニケーションがとれ，breakdownも起こすことは稀ある。表現内容についてもglobal errorはほとんど見られない。ただ，社会問題，国際問題についての表現する場面では，準備が必要でquick responseは難しい。communication strategyは所有している。
B	＊コミュニケーションへの積極的参加が見られる段階である。日常的な話題については，はじめることも終わらせることも可能で，なんとかやり取りを維持できる。表現内容に限界があり，global errorもたまに見られる。理解においても情報が多方面にわたると，要点を理解できない場面がある。発言内容は詳しく述べるには限界があるが，自分の表現したいメッセージは相手に伝えることができる。理解する時のノートテーキングの上達が見られる時期である。
A	＊自分と直接関係のある内容について表現でき，理解できる段階である。表現内容は，かなり単純化されている。また理解においては，身近な内容なら要点を把握することができる。語彙数，表現方法にかなり限界があり，breakdownは頻繁に起こり，global errorも多々見られる。援助があれば，比較的長く会話を続けられ，予想可能な話題については時間をかければコミュニケーションを維持できる。

表９ 葺合高校 Common Fukiai Framework（プレゼンテーション）

F	＊国連防災会議をはじめ国際高校生サミットに参加し，日本人だけでなく他国の人との前で，自信を持ってはっきりと内容を伝えることができる。また，質問に対して相手が納得のいく応答をすることができる。
E	＊話題について知識のない聴衆に対しても，自信を持ってはっきりと複雑な内容を口頭発表できる。聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化し，変えていくことができる。
D	＊複数の国際問題についてリサーチした上で，視聴覚機器を使いながら，事実関係をレポートし，自分の考えを適切に述べた後，聴衆と意見交換でき，ディスカッションを経由して修正案により，最終的に行動計画をまとめて打ち出すことができる。
C	＊学習した社会問題，国際問題を発展させ自分で関連情報をリサーチした上で，レポートにまとめた後，グラフ，図を示し，メモを見ながら事実関係と自分の考えを明確にプレゼンテーションすることができる。その後，聴衆と予測可能な質疑応答が比較的スムーズにできる。
B	＊学習した日常的な話題について，パラグラフ構成が比較的明確な原稿に基づきプレゼンテーションすることができる。10分程度でグループで協力しながら比較的自然な言葉遣いで表現することができる。発表後のやり取りでは予測可能なものについては質問に答えたり，追加情報を述べることができる。
A	＊学習済みで，十分練習したものであれば身近なまたは日常的な話題についてのプレゼンテーションができる。グループで 5 分が限度であるが，絵を使いながら効果的に表現することができる。また，自分と直接関係する経験談等では比較的流暢にSHOW & TELLができる。

葺合高等学校におけるCFFの活用としては，CFFに基づく年間シラバスの作成及び教材の配置，ならびにCFFを用いた生徒の英語運用能力の評価が挙げられる。葺合高等学校では，学年末に授業で学習した成果として英語技能の習熟度をCFFに基づくテストで測定している。さらにその結果分析によってCFFと観点別到達度評価との関連性の検証を行っている。

以上，中高一貫校及び高等学校におけるCAN-DO リストを見てきたが，CAN-DO リストの作成においてヨーロッパにおけるCEFR及び日本のCEFR-Jの影響が強く見られる。そして，その傾向は学習レベル等の形式，記述文の要素及び内容において顕著であると言える。

3.2.3　小中高一貫CAN-DOリスト試案

山形県では，平成27年より山形県「英語教育改革プラン」を実施し，その中で鶴岡市をモデル地区とした山形県「小中高大連携プログラム」による小・中・高等学校における10年間の系統立てた英語指導と郷土学習とのつながり，児童生徒間交流を展開している。その中で，小・中・高等学校のおけるCAN-DO形式による学習到達目標の設定を行っている。表10から表12は鶴岡市の小・中・高等学校におけるListeningとSpeakingのCAN-DOリストである。

表10 鶴岡版CAN-DOリスト　小学校

めざす姿	身近な話題について積極的に聞いたり，話したりすることができるコミュニケーション能力の素地・基礎の育成	
	Listening	Speaking
6 年	・身近な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。 ・身近なことに関する質問の意味を理解することができる。	・簡単な表現を使っての自己紹介や身近な事柄を英語で言うことができる。 ・身近なことに関する質問に答えることができる。
5 年	・身近で簡単な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。 ・身近で簡単な質問の意味を理解することができる。	・物の名前や自分の名前を英語で言うことができる。 ・身近で簡単なことについての相手の質問に何とか応じることができる。

3・4年	・自分自身や身近な事柄を表す英語に慣れ親しむ。 ・買い物，道案内など日常的によく使われる表現に慣れ親しむ。

表11 鶴岡版CAN-DOリスト　中学校

めざす姿	身近な話題や，自分の住む地域についてやり取りができるコミュニケーション能力の習得	
	Listening	Speaking
3年	・まとまりのある英文を聞いて概要を理解することができる。 ・ゆっくり話されれば，やや抽象的な内容の英語を理解することができる。	・簡単な英語を用いて，聞いたり，読んだりした内容を相手に伝えることができる。 ・聞いたり，読んだりした内容について，簡単な意見を交換することができる。
2年	・やや長い英文を聞いて理解することができる。 ・身近な内容であれば，まとまった量の英文の内容を理解することができる。	・身近な内容を相手に分かりやすく伝えることができる。 ・聞いたり，読んだりした内容について，相手に伝えたり，意見交換することができる。
1年	・身近な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。 ・身近なことに関する質問の意味を理解することができる。	・正しい語順で自己紹介や身近な事柄を英語で言うことができる。 ・身近なことに関する質問に適切に答えることができる。

表12 鶴岡版CAN-DOリスト　高等学校

めざす姿	様々な場面で適切にコミュニケーションをとることができるより高度なコミュニケーション能力の習得	
	Listening	Speaking
3年	・ナチュラル・スピードの英文を聞いておおまかに内容を理解することができる。 ・様々なジャンルの英文を聞いて内容を理解することができる。	・抽象度や社会性の高い内容について口頭発表ができる。 ・様々な話題で，相手と意見交換ができる。
2年	・何度か繰り返し聞けばナチュラル・スピードの英文を聞いておおまかに内容を理解することができる。	・聞いたり，読んだりした内容に自分の意見を加えて，伝えることができる。 ・相手の意見に対して，質問や意見を言うことができる。
1年	・まとまりのある英文を聞いて概要を理解することができる。 ・やや抽象的な英語を理解することができる。	・聞いたり，読んだりした内容を相手に伝えることができる。 ・聞いたり，読んだりした内容についての意見交換をすることができる。

鶴岡版CAN-DOリストの特徴としては，小学校から高等学校までの学習における到達度を系統的に設定している点と生徒にとって分かりやすい内容の表記となっている点が挙げられよう。鶴岡版CAN-DOリストにおける記述文は各領域2つが基本となっている。Speakingは発表の記述文が1つ，やり取りの記述文が1つとなっている。いずれの表記もシンプルで生徒にとって理解しやすい内容となっている。

小・中・高等学校おける一貫した到達目標設定の試みとして，さらに挙げられる研究として，樋口ら（2005）による小中高一貫ナショナルシラバス試案がある。樋口ら（2005）は小学校への英語教育の導入の必要性を強調するとともに，小・中・高等学校おける一貫した到達目標設定に向けた試案を公表している。表13は小中高における「話すこと」の到達目標である。

表13　4技能の到達目標（話すこと）

小学校 6年	①うた・ライム・チャントや標準的な発音を聞いて，英語の音声上の特徴を模倣し，歌ったり言ったり暗唱することに慣れ親しむ。 ②住所，電話番号や，身体の調子などの日常生活に関わる慣用的な会話表現を言ったり，問答することができる。 ③ほとんどすべての教室英語に対して，承諾，同意，断りなどを伝えることができ，また英語による表現や意味がわからない時に尋ねることができる。 ④家庭生活，学校生活などの身近な事柄について，すでに起きたことやこれから起こることなどを伝える文や文章を言ったり，尋ねたり答えたりすることができる。 ⑤自分やクラスメートの将来の夢や行きたい国とその理由などについて，文章で言ったり，尋ねたり答えたりすることができる。 ⑥道案内，国際交流会，観光地でのインタビューなどの場面で，文や文章を言ったり，尋ねたり答えたりすることができる。 ⑦外国の小学校の生活や文化などについて，ALTやゲストなどの比較的長い話を聞いて，また絵本，写真，ビデオなどを見ながら比較的長い話を聞いて，自分の感想や意見を2～3文で言うことができる。
中学校 3年	①賛成する/反対する，忠告/警告などの機能を適切に表現することができる。 ②ボランティア，文化と生活，平和学習などのさまざまな話題に関して，自分の考えや気持ちなどを整理し，大切な点を落とさないように述べることができる。 ③将来の夢や職業，学校生活，環境問題など，さまざまな話題に関して，発表したり，討論や初歩的なディベートに参加して問答をしたり，情報を伝え合ったりすることができる。 ④週末の過ごし方を尋ねるなどの電話での応答，旅行などに関するロールプレイやスキットをすることができる。 ⑤修正や確認などのコミュニケーション・ストラテジーや意見を尋ねる，話題転換などの会話ストラテジーを用いて話すことができる。 ⑥英語の音声の特徴を理解し，国際的にある程度通じる発音をすることができる。

高校3年	①ディスカッション，ディベートなどグループにおけるコミュニケーション場面で使用される機能表現（同意・反対，勧誘，推量，説得など）を適切に使うことができる。 ②道徳・倫理，科学技術，時事問題など，比較的抽象度の高い話題に関する会話に参加し，相手の発話に応じて発展的に応答ができる。 ③道徳・倫理，科学技術，時事問題など，比較的抽象度の高い話題に関して，自分の考えや気持ちを整理し，意見を効果的に述べることができる。 ④ラジオなどの聴覚メディアによる天気予報やニュースなどの情報を伝達することができる。 ⑤発話状況，対人関係などによって変化する待遇表現（丁寧な表現，聞き手に配慮する発言など）を使い，日常会話ができる。 ⑥国際的に通じる発音，リズム，イントネーションで伝えたいことを明確に言うことができる。

樋口らによる到達目標の記述文は，Notional-Functional Syllabusの影響が見られるが，CEFRによる影響は見られず，具体的な言語活動を重視した内容となっている。そのため各領域の項目数は6～7と多目になっている。

文部科学省は，平成28年に新学習指導要領作成に向けた教育課程部会外国語ワーキンググループの提案として，「外国語等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標　たたき台（以下，たたき台）」（資料3）を公表している。「たたき台」はCEFRの影響を受けたものとなっており，4技能5領域の到達度をCEFRレベルのPre-A 1からB 2までの5段階で提示している。小学校の到達目標が，Pre-A 1からA 1まで，中学校がA 1からA 2まで，そして高等学校がA 2からB 2までと幅を持たせた設定となっている。

最後に，日本児童英語教育学会・英語授業研究学会合同プロジェクトチーム（2017）による小中高における学習到達目標（CAN-DO）の作成の取り組みについて紹介する。

日本児童英語教育学会・英語授業研究学会合同プロジェクトチーム（以下，合同プロジェクト）（2017）は3年間に及ぶ研究から小学校から高等学校までの一環学習到達目標の試案（資料4）を作成した。合同プロジェクトによるCAN-DOリストの特徴は以下の通りである。

①目標設定に関しては，CEFR-J等を参考にして，「外国語の慣れ親しみ」について，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能に関する5領域（「聞くこと」，「話すこと：やりとり」，「話すこと：発表」，「読むこと」，「書くこと」）を設定し，各領域における学習者の到達指標を学習者のレベルに応じて記述している。

②Gradeで表示した到達目標のレベルに関しては，新学習指導要領による外国語活動の早期開始及び小中高一貫英語教育を踏まえて，小学校中学年（3，4年生）から高校卒業時のレベルまでを表14のようにGrade 1からGrade 10までの10段階で提示している。Grade 1は小学校中学年における「外国語活動」が修了する4年修了時における到達目標を示している。Grade 3は小学校における英語学習の修了時，Grade 6は中学校における英語学習の修了時，Grade 9は高等学校における英語学習の修了時における到達目標を示している。またGrade 10は英語科や国際教養科などの英語を専門とする高等学校の学科などにおける3年修了時の到達目標を示している。

③記述文（Descriptor）は，投野（編）（2013）に準じて，Listening及びReadingの受容技能は「①タスク，②テキスト，③条件」，Spoken Interaction（話すこと・やりとり），Spoken Production（話すこと・発表）及びWritingの発表技能は「①パフォーマンス，②質，③条件」の各構成要素を含めることを原則としている。

表14 合同プロジェクトCAN-DOリスト試案における到達目標レベル

Grade	到達目標レベル
Grade 1	小学校4年修了時
Grade 2	小学校5年修了時
Grade 3	小学校6年修了時
Grade 4	中学校1年修了時
Grade 5	中学校2年修了時
Grade 6	中学校3年修了時
Grade 7	高等学校1年修了時
Grade 8	高等学校2年修了時
Grade 9	高等学校3年修了時
Grade 10	高等学校（英語科，国際教養科など）3年修了時

④各技能・領域において重要となると考えられる構成要素を設定し，それぞれの構成要素に焦点を当てた記述文を作成した。表15は各領域における構成要素を示している。「聞くこと」の構成要素としては，音，イントネーション，リズムなどを中心とする発音，聞き取る英語の話題・場面及び表現，ラジオなどの情報源，聞き取りの方略を取り上げた。「話すこと：やりとり」については，やりとりの話題・場面及び使用する表現，活動・タスクの内容，コミュニケーション方略を，「話すこと：発表」については，音，イントネーション，リズムなどの適切な使用，発表する話題・場面及び使用表現，発表の活動・タスクを構成要素とした。また「読むこと」の構成要素としては，教材の音読，英文の話題・場面及び使用されている表現，辞書の活用を，「書くこと」の構成要素としては，つづり・書き方のルール，書く英文の話題・場面及び使用する表現，書く活動・タスク，英文を書く上での方略を取り上げている。

表15　記述文の構成要素

領域	領域の構成要素
聞くこと	①発音　②話題・場面，表現　③リソース　④方略
話すこと：やりとり	①話題・場面，表現　②活動・タスク ③コミュニケーション方略
話すこと：発表	①発音　②話題・場面，表現　③活動・タスク
読むこと	①音読　②話題・場面，表現　③方略 ④辞書の活用
書くこと	①つづり・書き方のルール　②話題・場面，表現 ③活動・タスク　④方略

⑤記述文の言語活動の具体的なイメージを持てるように，各領域の中心となる構成要素の具体例をCAN-DOリストの上部に示している。

⑥児童生徒の到達点のイメージをより明確にするために，「聞くこと」「話すこと：発表」「読むこと」「書くこと」の領域においては，原則的に中学校と高校の修了段階に目安となる数値目標を欄外に提示している。

3.3　CAN-DOリストの活用

合同プロジェクト（2017）は，各教育現場でCAN-DOリストを作成し，活用する意義及び目的を次のように挙げている。

①各学校は，学習指導要領の内容を踏まえながら，４技能を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から学習到達目標を設定し，指導･評価方法を改善する必要がある。

②CAN-DOリストは，児童・生徒に身に付けさせたい外国語表現の能力及び外国語理解の能力において，何ができるようになるかを「～することができる」という具体的な能力記述文によって表したものである。それにより学習到達目標を明確にし，その到達目標に向けた効果的な指導を考え，指導と評価の一体化を図る必要がある。そして各学校で，具体的な言語の使用場面における言語活動を設定し，学習活動の一環として言語活動を行わせ，それを評価することが重要になる。

③CAN-DOリストを児童・生徒や保護者と共有することで英語学習のゴールが明確になる。

④学習指導要領に沿って学習到達目標を設定し，それに基づいた指導と評価を行うことによって，語彙や文法等単なる知識の習得にとどまらず，知識を活用して，思考力・判断力・表現力を駆使し，コミュニケーションが図れるよう，４技能５領域の総合的な能力の習得をめざすようになる。

⑤学習到達目標の作成過程を通じて，教員間で指導と評価についての共通理解を図ることが可能となる。

⑥パフォーマンス評価などを活用することにより具体的に「英語を用いて何ができるか」という観点から評価がなされることで，指導と評価の改善につなげることができる。

また合同プロジェクト（2017）は，教育現場においてCAN-DOリストを長期的，中期的，短期的に活用するよう提言している。

長期的な活用としては，年間指導計画の中で到達目標として活用する方法である。学年末や学期末の到達目標として活用する際，到達目標と評価規準，評価方法を有機的に結びつけることが重要である。また，作成した到達目標は教員や学習者で共有し，指導と評価を繰り返す過程において，さらによいリストに改訂していくことが重要である。

中期的な活用としては，各単元・毎授業の目標設定のために活用する方法である。指標形式による目標をそれぞれの単元計画の中に設定し，毎時の指導計画にも目標・評価の観点として位置付け，形成的評価として用いることが可能である。

短期的な活用としては，授業改善のために活用がある。指導者は，各単元や毎授業における目標を明確に設定し，それに沿った活動を精選，準備して，児童・生徒にとって分かりやすいCAN-DO記述による目標を授業で提示する必要がある。CAN-DOリストに基づいて，児童・生徒は自分の学びを振り返り，それを積み重ねることによってポートフォリオ評価として活用したい。さらに，教師が内省を行ったり，教室における見取りとともに，児童・生徒のポートフォリオを検証し，授業改善に役立てたりすることが重要である。それにより，教師の自律性とともに，授業の設計力や内省力を高めたい。

以上のように，各学校で児童・生徒の実態やニーズに合ったCAN-DOリストを作成し，それらを効果的に活用することで，児童・生徒にとっては，英語力のみならず，英語学習への動機づけや自律性を高めることができる一方，教師にとっては，明確な目標を持って英語授業に取り組み，指導と評価の改善へとつなげることが大切である。

3.4　CAN-DOリストの作成の現状と課題

日本英語検定協会（2015）は，全国の中学・高等学校5000校を対象に外国語教育におけるCAN-DOリストによる学習到達度目標設定に関する現状調査を行っている。調査によると，アンケートに答えた878校の内，「すでに学習到達目標をCAN-DOリストの形で十分に設定できている」と答えた学校は全体の7.9％であった。「ほぼ設定できている」と答えた学校と併せても，CAN-DOリストを作成できている学校は全体の33.9％に留まっていた。また，CAN-DOリストを設定できている学校の中で，さらにそれを活用できていると答えた学校は52.2％とその約半数であった。すなわち，CAN-DOリストが作成でき，それを活用できている学校は全体の17.7％であった。

また前述の合同プロジェクトが2015年11月～2016年２月の約４ヶ月間に行った国公私立小中高等学校在職中の教員200名を対象とした「勤務校におけるCAN-DOリストの作成・活用」に関するアンケートの結果からも，「a. すでに作成済み」，「b. 現在，作成中」と回答した割合は全体の28.5%であり，CAN-DOリストが活用できていると回答した割合はそのうちの63.2%であった。日本英語検定協会が行った調査結果を裏付ける結果となっていた。

表16　CAN-DOリスト作成状況（合同プロジェクトアンケートより）

	小学校（64校）		中学校（74校）		高等学校(62校)		合計（200校）	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
a.	3	4.7	15	20.3	19	30.6	37	18.5
b.	5	7.8	10	13.5	5	8.1	20	10.0
c.	13	20.3	28	37.8	20	32.3	61	30.5
d.	43	67.2	21	28.4	18	29.0	82	41.0

a. すでに作成済み　b. 現在，作成中
c. 今後，作成予定　d. 作成予定なし

表17　CAN-DOリスト活用状況（合同プロジェクトアンケートより）

	小学校（３校）		中学校（15校）		高等学校(19校)		合計（37校）	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
a.	1	33.3	0	0	4	21.1	5	13.2
b.	2	66.7	12	75.0	5	26.3	19	50.0
c.	0	0	1	6.3	6	31.6	7	18.4
d.	0	0	2	12.5	4	21.1	6	15.8

a. 大いに活用している　　b. ある程度活用している
c. 作成はしているが，ほとんど活用していない
d. 作成はしているが，全く活用していない

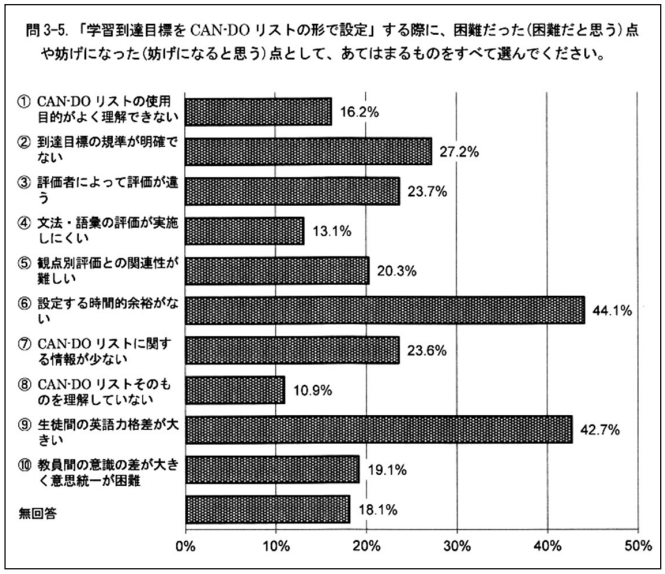

図１　CAN-DOリスト作成上の困難点〔日本英語検定協会（2015）〕

図１は，CAN-DOリストの作成に取り組んだ学校が困難や妨げと感じた点を示している。困難点や妨げとして最も多く挙げられているのが，「設定する時間的余裕がない」「生徒間の英語力格差が大きい」である。CAN-DOリストの作成が学校現場の大きな負担となっており，学力格差を抱えている現状が反映された結果となっている。また，その他の問題点として，「到達目標の規準が明確でない」「評価者によって評価が違う」「CAN-DOリストに関する情報が少ない」「観点別評価との関連性が難しい」などが挙げられている。CAN-DOリストの作成の目的やその具体的な活用法が学校現場で十分理解されていない現状を見ることができる。

CAN-DOリスト作成上の問題点として，リストが網羅しなければならない学習到達度レベルの幅の広さが挙げられよう。これが関連する４技能５領域と相まってリストの複雑さの要因となっている。

表18　各試験団体のデータによるCEFRとの対照表〔文部科学省（2014）〕

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

表18は文部科学省による英検やTOEICなどの外部検定試験のスコアとCEFRとの比較対照表であるCEFRやCEFR-Jを意識したCAN-DOリストが多くみられるがCEFRが扱う到達指標は英検の５級レベルから１級以上のレベルとかなり広い幅であることが分かる。TOEICのListening & Readingテストにおいても120から945以上のレベルである。これほどの幅広い能力レベルを扱うことが到達目標の規準の曖昧さにつながっていると言えよう。

O'Dwyerら（2017, p. 8 ）はCEFRによるカリキュラムや授業の改善について次のように述べている。

By focusing curricula on the competencies put forward by the CEFR, classroom learning may be focused and improved.

またO'Dwyerら（2017, p. 8 ）は，学習者による学習の振り返りや自己評価が自律性の育成につながると指摘した上で，CEFRに基づくCAN-DOリストの果たす役割について以下のように述べている。

It is thought that the effectiveness of reflection and self-assessment can be improved if they are combined with the learning progress mapped out in the CEFR self-assessment grid and illustrative scales.

カリキュラムや授業改善，学習者の自律の確立といったCAN-DOリストが本来持つべき目的の達成に向けたリストの作成及びその活用が求められている。そのためには，指導者のみならず学習者が理解しやすいCAN-DOリストの作成及びその効果的な活用法の開発が急務である。

４．研究の成果と今後の課題

今回の研究の目的は，学習到達度指標としてCAN-DOリストの元となるCEFR及びCEFR-Jについて分析するとともに，小・中・高等学校におけるCAN-DOリスト及びそれを活用した実践について考察を加えることによって，新学習指導要領における授業のあり方を踏まえた小・中・高等学校におけるCAN-DOリストの作成及び活用について提言を行うことであった。

CEFR及びCEFR-Jについては，その作成の理念及び役割を確認するとともに，共通参照レベルの全体尺度及び自己評価尺度の具体的記述を考察することによって，CAN-DOリストのあり方を確認することができた。また，小学校から高等学校までの教育現場におけるCAN-DOリストを用いたさまざまな実践や研究によるCAN-DOリスト試案を取り上げることによって，CAN-DOリストのあり方及び問題点をある程度明らかにすることができたと考える。

これから新学習指導要領における小・中・高等学校一貫の英語教育において求められるCAN-DOリストの果たす役割は大きくなることが予想される。今後もCAN-DOリストを活用した教育実践を研究することによって，カリキュラムや授業改善につながる学習到達指標のあり方について提言していく必要がある。

註

1）ヨーロッパ言語ポートフォリオ：Council of Europe（欧州評議会）によりCEFRの目的を実行する教育的ツールとして考案され，ヨーロッパ各国で言語学習及び異文化学習のために使用されている。学習者が各自で自分の言語能力を確認することが可能で，学習者の学習進行状況を把握・記録し，学習成果を保管できるようになっており，生涯にわたって使用できる個人の言語学習記録として活用されている。

2）千代田区立九段中等教育学校が独自に取り入れているカリキュラム。「伸びこぼし」「落ちこぼし」の生徒を作らないために，基礎・基本を徹底して指導し，その上で発展的な学習に取り組ませるシステム。英語科においては，英語合宿，海外研修旅行，English Activity，イングリッシュ・シャワーといった英語力を育成する学校独自のプログラムを展開している。

引用参考文献

Byram, M. & Parmenter, L.（Eds.）（2012）. *The common European framework of reference: The globalisation of language education policy*, Bristol: Multilingual Matters.

Council of Europe（2001）. *Common European framework of reference for languages: learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

O'Dwyer, F., Hunke, M., Imig, A., Nagai, N., Naganuma, N. & Schmidt, M.G.（Eds.）（2017）. *Critical, constructive assessment of CEFR-informed language teaching in Japan and beyond*, Cambridge: Cambridge University Press.

青柳敦子（2016）「小中高連携した英語教育の取組とその展望－山形県「小中高大連携プログラム」をもとに－」『山形大学　教職・教育実践研究』No. 11，1 -10.

千代田区立九段中等教育学校 「平成23年度版Kudan Can-Doリスト」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/092/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2012/09/24/1326033_ 2 _4.pdf 2018.4.8データ取得

樋口忠彦・金森強・国方太司（編）（2005）『これからの小学校英語教育－理論と実践－』 研究社

キース・モロウ（編）（2013）『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』研究社

神戸市立葺合高等学校（2005）「平成17～19年度　Super English Language High School 研究開発実施報告書」

日本英語検定協会（2015）「外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定に関する現状調査」
http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/cando_chosa_2014.pdf　2018. 4.8データ取得

日本児童英語教育学会・英語授業研究学会合同プロジェクトチーム（2017）樋口忠彦，泉恵美子，田邉義隆，和田憲明，神原勝ほか「小中高における学習到達目標（CAN-DO）の作成の取り組みとその活用法」『小中連携を推進する英語授業－実践的研究－』

文部科学省（2011）「国際共通語としての英語力向上のための５つの提言と具体的施策」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf　2018.4.8データ取得

文部科学省（2013）「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306_4.pdf　2018.4.10データ取得

文部科学省（2014）「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会　基礎資料」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2014/12/09/1353870_01.pdf　2018.4.10データ取得

文部科学省（2016）「教育課程部会　外国語ワーキンググループにおけるとりまとめ」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo 3 /058/siryo/__icsFiles/afieldfile/2016/09/14/1373448_1.pdf　2018.4.10データ取得

投野由紀夫（編）（2013）『CAN-DO リスト作成・活用　英語到達度指標CEFR-J ガイドブック』大修館書店

資料１：CEFR Self- Assessment Grid

	A1	A2	B1	B2	C1	C2
Listening	* I can recognize familiar words and very basic phrases concerning myself, my family and immediate concrete surroundings when people speak slowly and clearly.	* I can understand phrases and the highest frequency vocabulary related to areas of most immediate personal relevance (e.g. very basic personal and family information, shopping, local area, employment). * I can catch the main point in short, clear, simple messages and announcements.	* I can understand the main points of clear standard speech on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. * I can understand the main point of many radio or TV programs on current affairs or topics of personal or professional interest when the delivery is relatively slow and clear.	* I can understand extended speech and lectures and follow even complex lines of argument provided the topic is reasonably familiar. * I can understand most TV news and current affairs programs. * I can understand the majority of films in standard dialect.	* I can understand extended speech even when it is not clearly structured and when relationships are only implied and not signaled explicitly. * I can understand television programs and films without too much effort.	* I have no difficulty in understanding any kind of spoken language, whether live or broadcast, even when delivered at fast native speed, provided I have some time to get familiar with the accent.
Reading	* I can understand familiar names, words and very simple sentences, for example on notices and posters or in catalogues.	* I can read very short, simple texts. * I can find specific, predictable information in simple everyday material such as advertisements, prospectuses, menus and timetables and I can understand short simple personal letters.	* I can understand texts that consist mainly of high frequency everyday or job-related language. * I can understand the description of events, feelings and wishes in personal letters.	* I can read articles and reports concerned with contemporary problems in which the writers adopt particular attitudes or viewpoints. * I can understand contemporary literary prose.	*I can understand long and complex factual and literary texts, appreciating distinctions of style. *I can understand specialized articles and longer technical instructions, even when they do not relate to my field.	* I can read with ease virtually all forms of the written language, including abstract, structurally or linguistically complex texts such as manual, specialized articles and literary works.
Spoken Interaction	* I can interact in a simple way provided the other person is prepared to repeat or rephrase things at a slower rate of speech and help me formulate what I'm trying to say. * I can ask and answer simple questions in areas of immediate need or on very familiar topics.	* I can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar topics and activities. * I can handle very short social exchanges, even though I can't usually understand enough to keep the conversation going myself.	* I can deal with most situations likely to arise whilst travelling in an area where the language is spoken. * I can enter unprepared into conversation on topics that are familiar, of personal interest or pertinent to everyday life (e.g. family, hobbies, work, travel and current events).	* I can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction with native speakers quite possible. * I can take an active part in discussion in familiar contexts, accounting for and sustaining my views.	* I can express myself fluently and spontaneously without much obvious searching for expressions. * I can use language flexibly and effectively for social and professional purposes. * I can formulate ideas and opinions with precision and relate my contribution skillfully to those of other speakers.	* I can take part effortlessly in any conversation or discussion and have a good familiarity with idiomatic expressions and colloquialism. * I can express myself fluently and convey finer shades of meaning precisely. * If I do have a problem I can backtrack and restructure around the difficulty so smoothly that other people are hardly aware of it.
Spoken Production	* I can use simple phrases and sentences to describe where I live and people I know.	* I can use a series of phrases and sentences to describe in simple terms my family and other people, living conditions, my educational background and my present or most recent job.	* I can connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, my dreams, hopes and ambitions. * I can briefly give reasons and explanations for opinions and plans. * I can narrate a story or relate the plot of a book of film and describe my reaction.	* I can present clear, detailed descriptions of complex subjects integrating sub-themes, developing particular points and rounding off with an appropriate conclusion. * I can explain a viewpoint on a topical issue giving the advantages and disadvantages of various options.	* I can present clear, detailed descriptions of complex subjects integrating sub-themes, developing particular points and rounding off with an appropriate conclusion.	* I can present a clear, smoothly-flowing description or argument in a style appropriate to the context and with an effective logical structure which helps the recipient to notice and remember significant points.
Writing	* I can write a short, simple postcard, for example sending holiday greetings * I can fill in forms with personal details, for example entering my name, nationality and address on a hotel registration form.	* I can write short, simple notes and messages relating to matters in areas of immediate needs. * I can write a very simple personal letter, for example thanking someone for something.	* I can write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest. * I can write personal letters describing experiences and impressions.	* I can write clear, detailed text on a wide range of subjects related to my interests. * I can write an essay or reports, passing on information or giving reasons in support of or against a particular point of view. * I can write letters, highlighting the personal significance of events and experiences.	* I can express myself in clear, well-structured text, expressing points of view at some length. * I can write about complex subjects in a letter, an essay or a report, understanding what I consider to be the salient issues. * I can select style appropriate to the reader in mind.	* I can write clear, smoothly-flowing text in an appropriate style. * I can write complex letters, reports or articles which present a case with an effective logical structure which helps the recipient to notice and remember significant points. * I can write summaries and reviews of professional or literary works.

資料２：KUDAN CAN-DOリスト

KUDAN Can-Do	学年（段階）／項目	第1学年（学年末）	第2学年（学年末）	第3学年（学年末）	第4学年（学年末）	第5学年（学年末）	第6学年（卒業時）
		G1	G2	G3	G4	G5	G6
Reading 読むこと	実生活に関わること	[R1-1]公共の施設などにある簡単な表示や掲示を見て、その意味が理解できる。	[R1-2]携帯などの短いメールのメッセージを、辞書を使いながら読み理解できる。	[R1-3]海外の学校に掲示されている注意事項やお知らせを読み理解できる。	[R1-4]チラシやパンフレットを読んで、特徴や値段などの必要な情報を探して、その内容を理解することができる。	[R1-5]学習者用に書かれた英字新聞に載せられている興味のある記事を、辞書を多用しないで読み理解できる。	[R1-6]英字新聞の興味のある記事を、辞書を多用しないで読み理解できる。
	本校の行事やKudan Methodに関すること	[R2-1]多読用図書（本校設定の赤レベル）を、辞書を使わないで、楽しみながら読むことができる。	[R2-2]英語合宿で使用されるテキストを読んで、指示文や概要が理解できる。	[R2-3]オーストラリアのホストファミリーからの手紙やメールを、辞書を使えば理解することができる。	[R2-4]副読本（ペンギンブック・レベル3程度）を、辞書を使わないで、楽しみながら読むことができる。	[R2-5]副読本（ペンギンブック・レベル4程度）を、辞書を使わないで、楽しみながら読むことができる。	[R2-6]副読本（ペンギンブック・レベル5程度）を、辞書を使わないで、楽しみながら読むことができる。
	黙読スピードと概略理解に関すること	[R3-1]英検4級レベルの文章を、60wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。	[R3-2]英検3級レベルの文章を、70wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。	[R3-3]都立高校の入試問題（600語程度）を、80wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。	[R3-4]英検2級のレベルの文章を、90wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。	[R3-5]センター入試の第6問レベルの問題を、120wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。	[R3-6]センター入試の第6問レベルの問題を、140wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる。
	音読に関すること	[R4-1]中学1年生の既習の教科書本文を、英語特有の音を正しく発音しながら音読できる。	[R4-2]中学2年生の既習の教科書本文を、正しい発音で滑らかに音読できる。	[R4-3]中学3年生の既習の教科書本文を、その内容に合わせて感情を込めて音読できる。	[R4-4]英語Ⅰの既習の教科書本文を、意味のまとまりに注意し、相手が理解しやすいように音読できる。	[R4-5]英語Ⅱの既習の教科書本文を、意味のまとまりに注意し、ナレーターを演じるように音読できる。	[R4-6]本校で使用する高校の教科書レベルの文章であれば、初見であっても相手に意味が伝わるように音読できる。
	GTEC for STUDENTS（リーディング）の目標スコア	80点以上を取ることができる。【グレード1】	105点以上取ることができる。【グレード1】	140点以上取ることができる。【グレード3】	160点以上取ることができる。【グレード4】	190点以上取ることができる。【グレード5】	220点以上取ることができる。【グレード5】
Listening 聞くこと	実生活に関わること	[L1-1]簡単な指示を聞いて、適切に応じることができる。	[L1-2]ゆっくり話してもらえば、簡単な道案内を聞いて理解することができる。	[L1-3]学校などの施設や乗り物などで、簡単なアナウンスを聞いて理解することができる。	[L1-4]買い物で店員からの簡単な商品説明を聞いて理解することができる。	[L1-5]簡単な内容であれば、英語で行われる学校外の授業や研修を理解することができる。	[L1-6]身近な話題についての映画やテレビ番組を見て、画面の情報を助けとしながら、その概要を理解することができる。
	本校の行事やKudan Methodに関すること	[L2-1]English Showerで、講師の先生による簡単な自己紹介を聞いて、概ね理解することができる。	[L2-2]英語合宿で、ゆっくり話してもらえば、講師の先生の英語を理解することができる。	[L2-3]オーストラリア研修旅行で、ホストファミリーが自分に向けて話す内容を概ね理解することができる。	[L2-4]学習発表会において、どの学年の生徒の話す英語も聞き取ることができる。	[L2-5]ディスカッションやディベートなどで、自分の次の発言内容を考えながら聞くことができる。	[L2-6]English Showerや英語による講演を聞いて、話されていることが理解できる。
	一方的な発話の聞き取り	[L3-1]人やものについての簡単な説明を聞いて理解することができる。	[L3-2]教師による教科書の内容や活動のやり方などの説明を聞いて理解することができる。	[L3-3]英検3級レベルの長文問題を、少しゆっくりとしたスピードで聞き、内容が理解できる。	[L3-4]英検準2級レベルの長文問題を、少しゆっくりとしたスピードで聞き、内容が理解できる。	[L3-5]英検2級の長文問題を、少しゆっくりとしたスピードで聞き、内容が理解できる。	[L3-6]本校で使用する英語Ⅰレベルの教科書のCDを、自然な音調で聞き、内容が理解できる。
	会話における聞き取りや技術に関すること	[L4-1]ごく身近な話題の会話において、相手の言うことを理解し、相づちなどの反応をすることができる。	[L4-2]身近な話題の会話において、相手の言うことを理解し、さまざまな相づちを打つことができる。	[L4-3]相手の話す内容に応じて適切な相づちを打ったり、分からないところを聞き返したりすることができる。	[L4-4]英語で聞いたり話したりしたことのある話題ならば、相手の言うことを理解し、必要なときに内容を確認することができる。	[L4-5]身近な話題であれば、相手の言うことを理解し、必要なときに内容を確認することができる。	[L4-6]自分の知らないことを言われても、適切に対処しながら会話を続けることができる。
	GTEC for STUDENTS（リスニング）の目標スコア	115点以上取ることができる。【グレード1】	140点以上取ることができる。【グレード2】	165点以上取ることができる。【グレード3】	190点以上取ることができる。【グレード4】	215点以上取ることができる。【グレード5】	230点以上取ることができる。【グレード6】
Speaking 話すこと	実生活に関わること	[S1-1]食べ物やスポーツなどの好き嫌いについて述べることができる。	[S1-2]物事の好き嫌いとその理由を簡単に述べることができる。	[S1-3]電話で、簡単な表現や決まり文句を使って適切に応答することができる。	[S1-4]電話で、会う時間や場所などの交渉をすることができる。	[S1-5]旅行やイベントなど印象に残った出来事について、相手に分かりやすく詳細に話すことができる。	[S1-6]店、レストラン、公共の施設などで、問題点など自分の用件を伝え、交渉をして解決することができる。
	本校の行事やKudan Methodに関すること	[S2-1]English Showerなどで、初対面の相手にあいさつや簡単な自己紹介を即興でできる。	[S2-2]English Showerや英語合宿などで、簡単な質問に適切に答えることができる。	[S2-3]オーストラリア研修旅行で、日本や学校、家族などに関する基本的なことを相手に伝えることができる。	[S2-4]ディスカッションにおいて自分の意見を相手に理解してもらえるように話すことができる。	[S2-5]ディベートにおいて、論題に対して200語程度の立論スピーチをすることができる。	[S2-6]社会的な問題について、ディスカッションやディベートができる。
	準備をして行う発話（発表活動）	[S3-1]人物や事物についての50語程度のスピーチを行うことができる。	[S3-2]習ったばかりの教科書の内容を自分の言葉で伝えることができる。【リプロダクション】	[S3-3]商品やアンケート調査結果などを説明するプレゼンテーションができる。	[S3-4]教科書のレッスンや短い物語の概要と感想を述べることができる。	[S3-5]図表や写真などを有効に利用し、分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。	[S3-6]5分程度のスピーチを、分かりやすい構成で、聞き手を惹きつけながら行うことができる。
	即興で行う発話（会話など）	[S4-1]チャットを友だちと協力しながら1分以上続けることができる。	[S4-2]チャットを友だちと協力しながら2分以上続けることができる。	[S4-3]自分の得た簡単な情報を、準備しないで、他の人に誤解なく伝えることができる。	[S4-4]会話において、身近な話題であれば、相手の反応に合わせて補足説明をしながら、話を続けることができる。	[S4-5]読んだ本や見た映画についての内容や感想を、簡潔に述べることができる。	[S4-6]自分が発表したことに相手から質問された際、相手のもっている情報量に合わせて説明することができる。
	英検の面接テストの目標スコア	英検3級の面接テストのNo. 2からNo. 5を行い、40%以上の得点を取ることができる。	英検3級の面接テストのNo. 2からNo. 5を行い、70%以上の得点を取ることができる。	英検準2級の面接テストのNo. 2からNo. 5を行い、60%以上の得点を取ることができる。	英検2級の面接テストのNo. 2からNo. 4を行い、60%以上の得点を取ることができる。	英検準1級の面接テストのナレーションおよびNo. 1からNo. 4を行い、50%以上の得点を取ることができる。	英検準1級の面接テストのナレーションおよびNo. 1からNo. 4を行い、70%以上の得点を取ることができる。
Writing 書くこと	実生活に関わること	[W1-1]入国カードなどに、日付、自分の名前、国籍、生年月日などを書くことができる。	[W1-2]自分の予定を手帳やカレンダーなどにメモ書きすることができる。	[W1-3]感謝や謝罪を表した簡単なメールや手紙を書くことができる。	[W1-4]経験、感情や出来事を詳しく記した個人的なメールや手紙を書くことができる。	[W1-5]相手を説得するためのメールや手紙を書くことができる。	[W1-6]新聞や雑誌などに自分の意見を投稿できる。
	本校の行事やKudan Methodに関すること	[W2-1]自己紹介の掲示用ポスターを書くことができる。	[W2-2]長期休業中に自分のしたことを英語新聞などの形式で読みやすく書くことができる。	[W2-3]辞書を使えば、ホストファミリーに伝えたいことをEメールや手紙に書くことができる。	[W2-4]社会の出来事や自分が興味を持っていることを、英語新聞などにまとめることができる。	[W2-5]自分が読んだ本のあらすじを、読み手に分かりやすく書くことができる。	[W2-6]興味のあることを小論文にまとめたり、物語文を創作して書くことができる。
	意見、要約、感想などの筆記に関すること	[W3-1]見本を参考にして、簡単な絵はがきやカードを書くことができる。	[W3-2]イラストや写真の簡単な説明文を書くことができる。	[W3-3]簡単な内容であれば、教科書で習ったレッスンの要約文を書くことができる。	[W3-4]自分の経験したことを、そのときの気持ちを含めて、読み手に伝わるように書くことができる。	[W3-5]語数の多い文章を読んで、その内容を知らない読み手に分かる要約文を書くことができる。	[W3-6]日本の文化などについて、他国と比較しながら説明する文章を書くことができる。
	口頭発表するための原稿に関すること	[W4-1]5ターン程度の創作スキットを他の生徒と協力して書くことができる。	[W4-2]12文（80語）程度のスピーチ文を聞き手に分かりやすく書くことができる。	[W4-3]自分の好きなテーマのプレゼンテーション用の原稿を聞き手が理解しやすい構成で書くことができる。	[W4-4]教科書で習ったさまざまな分野について、その要点と感想を述べるためのスピーチ原稿を書くことができる。	[W4-5]3部構成（序論、本論、結論）で説得力のある300語程度のスピーチ原稿を書くことができる。	[W4-6]500語程度のスピーチ原稿を聞き手を惹き付けられるような工夫をして書くことができる。
	GTEC for STUDENTS（ライティング）の目標スコア	80点以上取ることができる。【グレード3】	90点以上取ることができる。【グレード3】	100点以上取ることができる。【グレード4】	115点以上取ることができる。【グレード4】	130点以上取ることができる。【グレード5】	140点以上取ることができる。【グレード5】
総合的な英語力検定試験の目標	英検	4級	3級	準2級	準2級～2級	2級	2級～準1級
	GTEC for STUDENTS	275 【グレード1】	335 【グレード2】	405 【グレード3】	465 【グレード4】	535 【グレード5】	590 【グレード5】

資料３：文部科学省　外国語ワーキンググループによるCAN-DOリスト

「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）たたき台

別添 9

校種	CEFRレベル	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
高等学校	B2	○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて，概要や要点を理解できるようにする。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて，話の展開を理解できるようにする。 ○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて，概要や要点を理解できるようにする。 ○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して，概要や要点を理解することができるようにする。	○関心のある分野の記事や資料から，必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○興味のある現代小説や随筆を読んで，概要を理解することができるようにする。 ○時事問題や社会問題に関する記事やレポート，資料を読んで，概要や要点，筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。	○幅広い話題に関する会話に参加し，情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。 ○知識のある時事問題や社会問題について，幅広い表現を用いて議論することができるようにする。	○幅広い話題について，即興で，説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 ○幅広い分野のテーマについて，明瞭かつ詳細な説明をすることができる。 ○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について，様々な見方の長所・短所を示すとともに，自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする ○聴衆の反応に応じて，発表の内容や方法を調整することができるようにする。	○関心のある分野のテーマについて，事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで，その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題について，得た情報を活用しながら，自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。 ○Eメール，エッセイ，レポートなどを，それぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。
↑	B1	○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて，概要や要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば，時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて，要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば，馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して，要点を理解できるようにする。	○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート，資料から，必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○短い物語を読んで，あらすじを理解することができるようにする。 ○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで，概要や要点を理解できるようにする。 ○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで，概要や要点を理解できるようにする。	○公共の場所（店，駅など）において，自分の問題を説明し，解決することができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について，準備をしないで会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について，簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。	○身近な話題や関心のある事柄について，即興で説明することができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について，まとまりのある内容を話すことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート，資料の概要や要点を説明することができるようにする。 ○知識のある時事問題や社会問題について，内容を具体的に説明するとともに，自分の意見を加えて話すことができるようにする。	○自分の経験や身近な事柄について，複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで，その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。 ○関心のある分野のテーマについて，まとまりのある文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。
中学校	A2	○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて，必要な情報を聞き取ることができるようにする。 ○身近な話題に関する短い会話を聞いて，概要や要点を理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと話されれば，身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。	○日常生活において身の回りにある短い平易なテクストから，必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○平易な英語で書かれた短い物語を読んで，あらすじを理解できるようにする。 ○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで，概要や要点を理解できるようにする。	○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について，ある程度準備をすれば，会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題について，簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。	○身近な事柄や出来事について，簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について，簡単な説明をすることができるようにする。 ○身近な話題について，自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。	○自分が必要とする事柄について，短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 ○身近な事柄について，簡単な語句や表現や用いて，短い説明文を書くことができるようにする。 ○聞いたり読んだりした内容について，簡単な語句や表現を用いて，自分の意見や感想を書くことができるようにする。
↑	A1	○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと話されれば，身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を，視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。	○日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 ○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで，視覚情報などを参考にしながら，あらすじを理解することができるようにする。 ○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで，視覚情報などを参考にしながら，概要を理解することができるようにする。	○相手の発話を理解できない場合など，必要に応じて，聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 ○相手のサポート（ゆっくり話す，繰り返す，言い換える，自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる　など）があれば，ごく身近な話題について，簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。	○簡単な語句や文を用いて，自分について話すことができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ○ごく身近な事柄や出来事について，事実，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。	○自分に関するごく限られた情報を，簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。 ○ごく身近な事柄について，簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。
小学校	(Pre-A1)	○アルファベットの発音を聞いて，どの文字であるかがわかるようにする。 ○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと，繰り返し話されれば，自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。	○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し， 発音することができるようにする。 ○音声で十分に慣れ親しんだ，ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て，その意味を理解できるようにする。	○挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。 ○相手のサポート（ゆっくり話す，繰り返す，言い換える，自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる　など）があれば，自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。	○定型表現を用いて，簡単な挨拶をすることができるようにする。 ○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて，簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	○目的を持ってアルファベットの大文字と小文 字を活字体で書くことができるようにする。 ○例文を参考にしながら，音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。

複数の技能を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

資料４：日本児童英語教育学会・英語授業研究学会合同プロジェクト CAN-DO リスト

「話すこと（発表）」 構成要素：①発音，②話題・場面，表現，③活動・タスク

各構成要素の具体例									
Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5	Grade 6	Grade 7	Grade 8	Grade 9	Grade 10
①* 音声的特徴（Grades 1－3）：音，イントネーション，リズムなど			①* 音声的特徴（Grades 4－10）：発音，音変化，強勢，イントネーションなど						
②【話題例（Grades 1－3）】：〔中・高学年共通〕挨拶や気持ち，身の回りの物，動物・食べ物・スポーツなどの好き嫌い，欲しいもの，一日の生活，なりたい職業など 〔主に中学年〕色，数字，ジェスチャー，お気に入りの場所など 〔主に高学年〕お気に入りの日，世界の国々と日本，中学校生活など 【場面例（Grades 1－3）】：自己紹介，意見や気持ちなど			②【話題例（Grades 4－6）】：日課，課外活動，休暇の予定や出来事，町紹介，職場体験，将来の夢，趣味，ボランティア活動，環境問題など 【場面例（Grades 4－6）】：自己紹介，家族紹介，買い物，レストラン，乗り物，道案内，電話，病院，休暇の予定，出来事，町紹介など			②【話題例（Grades 7－10）】：学校，地域，家庭，社会，環境，人文，科学技術，時事問題，道徳，倫理，政治など 【場面例（Grades 7－10）】：旅行・買い物，スピーチ，プレゼンテーション			
③【活動・タスク例（Grades 1－3）】：スピーチ，Show and Tell，プロジェクト発表，クイズ発表など			③【活動・タスク例（Grades 4－10）】：スピーチ，Show and Tell，プレゼンテーション（ポスター発表，プロジェクト発表，クイズ発表）など						
数値目標の目安 Grade 3：事前に準備したテーマについて，あらかじめ準備したうえで，6～7文程度のスピーチができる。			Grade 6：事前に準備したテーマについて，あらかじめ準備したうえで2～3分間程度のスピーチ（10～15文）ができる。			Grade 9：事前に準備したテーマについて，あらかじめ準備したうえで3分間以上のスピーチ（30文以上）ができる。			
①明瞭かつ丁寧な発音を繰り返し聞けば，英語の音声的特徴*を模倣し，ある程度意識しながら発音することができる。		①明瞭かつ丁寧な発音を繰り返し聞けば，英語の音声的特徴*を模倣し，ある程度正しく発音することができる。			①明瞭かつ丁寧な発音を聞けば，基本的な英語の音声的特徴*をとらえ，正しく発音することができる。			①必要に応じてモデルを聞けば，英語の音声的特徴*を踏まえ，話す速度，声の大きさなどに留意し，正確に発音することができる。	①何度か練習すれば，英語の音声的特徴*を踏まえ，話す速度，声の大きさなどに留意し，自然な速さで正確に発音することができる。
②音声に慣れ親しんだ語句や表現を用いれば，自分や身の回りの事物について，ごく限られた範囲で伝えることができる。	②音声に慣れ親しんだ語句や表現を用いれば，自分や身の回りの事物について，相手に配慮しながら伝えることができる。	②音声に慣れ親しんだ語句や表現を用いれば，身近な場面における個人的な話題について，相手に配慮しながら伝えることができる。	②基本的な語句や表現を用いて事前に発話する内容を準備すれば，身近な場面における個人的な話題について，複数の文で伝えることができる。	②基本的な語句や表現を用いて事前に発話する内容を準備すれば，日常生活の場面における個人的な話題や関心事について，複数の文で伝えることができる。	②基本的な語句や表現を用いて事前に発話する内容を準備すれば，日常生活の場面における個人的な話題や関心事について，まとまりのある文章で自分の考えを伝えることができる。	②メモを準備すれば，個人的な話題や馴染みのある話題について，まとまりのある文章で自分の考えを伝えることができる。	②メモを準備すれば，馴染みのある社会的な話題について，自分の考えを筋道立てたり，理由や説明を簡潔に示したりして，ある程度詳しく伝えることができる。	②簡単なメモを準備すれば，未習情報が含まれている社会的な話題について，自分の考えや結論を適切にまとめて，流暢に伝えることができる。	②ごく簡単なメモを準備すれば，幅広い話題について，論拠や自分の主張を明確かつ流暢に伝えることができる。
③音声に慣れ親しんだ語句や表現を用いれば，ごく限定的な発表を行うことができる。	③音声に慣れ親しんだ語句や表現を用いれば，限定的な発表を行うことができる。	③音声に慣れ親しんだ語句や表現を用いれば，簡単な発表を行うことができる。	③基本的な語句や表現を用いれば，簡単な発表を行うことができる。	③基本的な語句や表現を用いれば，やや発展的な発表を行うことができる。	③既習の語句や表現を用いれば，やや発展的で即興性のある発表を行うことができる。	③原稿等を準備すれば，既習の語句や表現を活用して，やや発展的な発表を行うことができる。	③メモ等を準備すれば，必要な語句や表現を活用して，発展的な発表を行うことができる。	③簡単なメモを準備すれば，必要な語句や表現を活用して，発展的で即興性のある発表を行うことができる。	③ごく簡単なメモを準備すれば，様々な語句や表現を活用して，発展的で即興性のある発表を行うことができる。